

習志野市公共施設再生計画

建物の寿命は約50～60年と言われており、昭和30～50年代の人口が急激に増えた時期に建てられた習志野市内の公共施設の多くは、まもなく寿命を迎えつつあるんです。

公共施設は大切な公共サービスを提供していますが、建て替えや改修にはとてもお金がかかります。

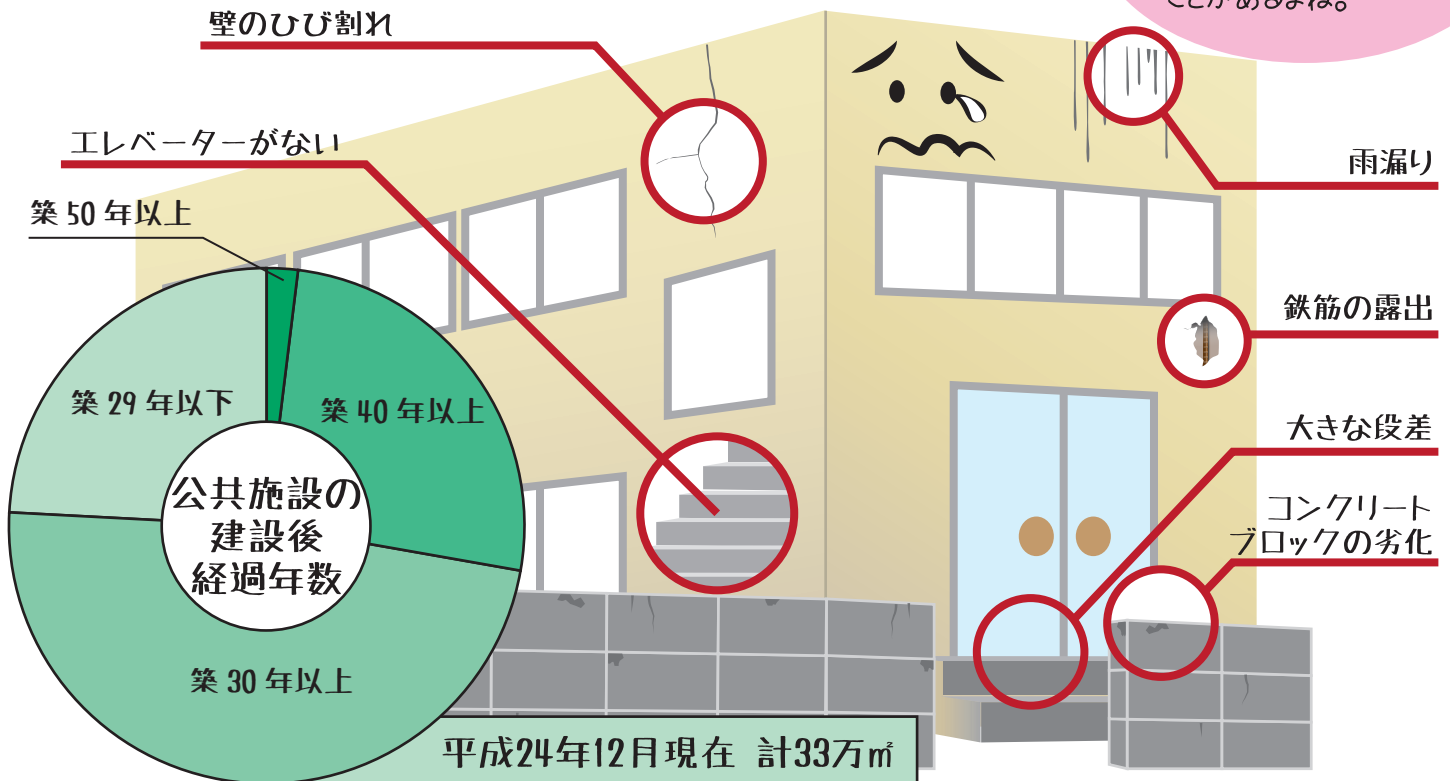
将来の社会の動きを見据えて今後どうしていくかが今、問われています。

未来の習志野市の姿を、一緒に考えていきませんか？

* NOW ! 習志野市の公共施設の“今”

習志野市の公共施設は、老朽化が進んでいます

※公共施設とは…
学校や公民館、図書館など、市がつくった建物のことだよ。
みなさんも一度は利用したことがあるよね。



全ての建物を安全で快適にするには？

現在ある施設を
全て建て替え・改修
するのに必要な金額
=1年あたり
38億円

どうしても
お金が足りない…

¥ 実際に習志野市
から出せる金額
=1年あたり
15億円

人口減少や少子超高齢化で、税収は減少すると見込まれているんだ。
一方で社会保障費が増加している今、将来を見据えると、公共施設には限られたお金しか使うことができないんだよ。

NEXT ▶▶

ではこの先
どうすればいいの？



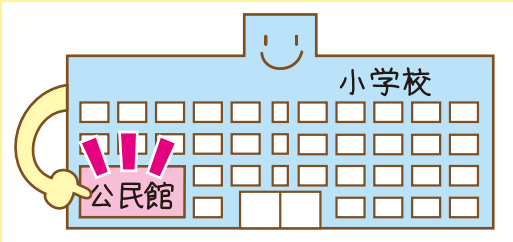
▶ POINT ◀ 公共施設再生の鍵となる3つの対策

1. 建物総量の圧縮

「1つの施設に1つの機能」という考え方を一新。1つの施設に複数の機能を持たせることで、機能はキープしたまま施設数を減らし、施設の維持にかかる費用を削減していきます。

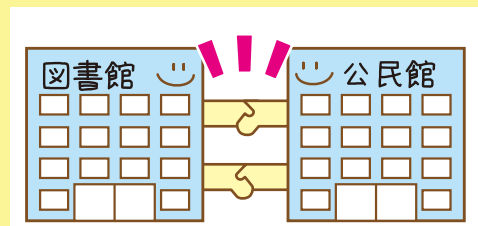
複合 1つの建物に複数の機能を持たせる

例えば… 小学校と公民館を一緒にし、一つの建物を利用する。



共用 複数の建物に共通する機能を一緒にする

例えば… 2つの建物にあるトイレや事務室などを一緒にして利用する。



多機能 1つの空間を時間で分け、複数の機能を持たせる

例えば… 体育館や校庭を、学校で使わない時間帯や曜日に地域の方が運動場として利用する



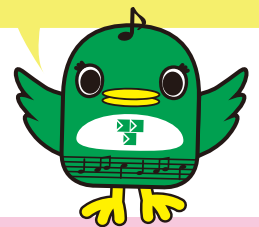
2. 新しい財源の創出

機能の統合・複合化によって使われなくなった建物や土地について、検討したうえで原則として民間に売却・貸付することで、新たな財源を生みだします。その場所を活用し、住宅の建設や企業活動が行われることによって、将来的に新たな税収も期待できます。

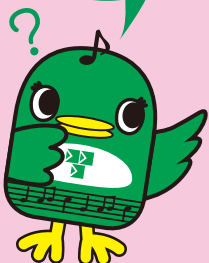
3つの対策に加え、市民へのアンケートや各地区の人口の変化などを踏まえた上で、総合的な視点から約120の施設の配置が見直されたんだ。

3. 建物を長持ちさせる工夫

設備や建物が壊れる前に、計画的にメンテナンスすることにより、性能や機能を維持し長寿命化を図ります。事後保全から予防保全に切り替え、コストを削減していきます。



あれ？
気になる！



Q: 長期的な計画みたいだけど、すべて計画通り実施するの？

A: この計画は、平成26年から25年間の長期的な見通しを立ててつくられているよ。もちろん長い期間の中で社会の動きが変わることもあるから、その時々で見直しながら進めていくよ。

Q: 見直すのに、なぜ今計画を立てるの？

A: 台風が来る時、天気予報で予想されている進路を見て、対策を立てるよね。公共施設も同じで、今後生じることを事前に想定して備えているんだ。将来の世代に負担をかけないように、これからの社会の動きを見据えて計画を立てているんだよ。

NEXT ▶▶
モデル事業としての
取り組み

★ PICK UP!!

大久保地区の公共施設再生

習志野の地域の未来プロジェクト I

(仮称) みらい創生館 北館・南館、みらい中央公園として生まれ変わります

公園

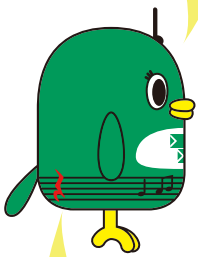
公園は各施設をつなぐ憩いの場として整備されるほか、野球場の多目的利用などが計画されています。また、大学～商店街～駅から園内につづく道路を、小径(こみち)として演出。今まで以上に多くの世代の方でにぎわう場所となるでしょう。

北館

大久保公民館・市民会館・大久保図書館は「北館」として生まれ変わります。ホールの設置、図書館の蔵書や閲覧スペースの増加などサービスの充実が期待され、また民間事業者によるテナントの誘致も検討されています。

- 集約される施設
- 生まれかわる施設

これから中央公園を中心として、多世代が交流し、街のにぎわいを生み出す新しい取り組みが始まっていくよ!



新施設のオープンは平成32年を予定しているんだって。これから習志野市の公共施設は、

“量から質”

へとシフトしていくんだね!



この色の範囲にある → 藤崎図書館、あづまこども会館、屋敷公民館、ゆうゆう館の4つの施設は、集約化・複合化によって…なくなっちゃうの?

南館

現在の勤労会館は「南館」として、スポーツや子ども、働くことを支援する施設となります。スポーツ施設と公園との連携を強めるためのテラス、利用者のためのラウンジの設置が検討されています。



NEXT ▶▶

公共施設は
どうなっていくの?

* FUTURE 全国に先駆けて対話を重視した計画を

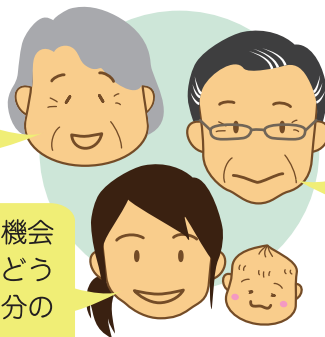
跡地の利活用について市民とともに検討

大久保地区で集約される4つの施設の市による運営は平成32年に終了する予定ですが、提供していたサービスは**新しくなる北館・南館に引き継ぎ**ます。一方、集約後の施設の跡地についてはワークショップを開催し、今後どのように活用していくか、**市民のみなさんからさまざまなアイディア**を頂きました。

※ワークショップとは…多様な人々が主体的に参加して話し合い、課題解決や合意形成を導く手法です。

今の学生の方々の意見をお聞きしたくて参加しました。習志野市が学生街であることに感謝しています。今後、若い方々と気軽に交流できる場所が生まれることを期待しています。

多様な方と地域の未来について話すのはとてもよい機会ですし、今回の公共施設だけでなく、まちとしてどうあったらよいか、こうしていきたいという視点が自分の中でより強くなったように思います。



損得がない中での議論は非常に良かったのですが、市民の意見がどこまで取り入れられるのか、よくわからなかったのが残念です。ただ市民参加の意味は大きいので、もっと多くの市民が参加して今後も続けていくべきだと思います。

ワークショップ参加者アンケートより抜粋



平成27年10月17日に開催されたワークショップでは、20～70代までの約30人の参加者が意見を出し合いました。



参加者一人ひとりの意見を整理し対話をしながら、グループごとに公共施設の新たな活用について発表しました。

説明会・出前講座で理解を

この計画は「公共施設の廃止」が目的ではなく、**これからの時代にあった活用・維持を考える**ためのものです。普段公共施設を利用されている市民のみなさんの生活に関わる問題ですので、まずは計画について知っていただくことを第一に考えています。平成25年に計画の大まかな案をつくってから、市内各地で説明会や出前講座などを開催してまいりました。公共施設再生計画が描く、未来の習志野のまちの姿について一緒に考えていきませんか？

※平成27年12月時点で延べ約3,500人の市民のみなさまにご参加いただきました。

今後も習志野市は幅広い年代の市民に呼びかけ、計画への理解の場を設けていきます

※目の不自由な方のために、各図書館に朗読CD、点字版を置いています。

この続きは地域情報サイト「まいぷれ習志野」へアクセス！



まいぷれ習志野では「公共施設再生計画」についてわかりやすく解説。これからどんなまちづくりが行われていくか、現場で取材を重ねています。習志野市が時代を見据えてどんな取り組みをしているか、ぜひご覧ください。

まいぷれ習志野



MY PLACE MY PLEASURE

まいぷれ

